

## 『ふるむ・マラウイ』

30<sup>th</sup> /Sep/2010 第0号

Muli bwanji ! (ムリブワンジ：チェワ語でこんにちは、ご機嫌いかがの意)

青年海外協力隊22年1次隊の菅野将央<sup>すがのまさひさ</sup>です。私の赴任している国、マラウイについて紹介していきたいと思います。

マラウイの正式名称はマラウイ共和国(Republic of Malawi)でアフリカ大陸の東南部に位置し、国の北部・北東部をタンザニア、西部をザンビア、南部・南西部をモザンビークに接した細長い内陸国です。国土面積は118,484km<sup>2</sup>(北海道と九州を合わせたくらいの大きさ)で、そのうち20%を世界遺産でもあるマラウイ湖が占めています。人口は約1,300万人の小さな国です(人口密度はアフリカでは高い方)

公用語は英語と現地の言語でもあるチェワ語です。そのほか北部ではティティンブカ語、南部の一部ではチャオ語が使われています。宗教は約80%がキリスト教で、約15%がイスラム教です。主食はトウモロコシの粉を日本のそばがきのように練った『シマ』(次号以降で紹介します!)です。

マラウイは決して物質的には豊かな国とはいえませんが、マラウイはHeart of Africa(アフリカの真心)といわれ、明るく優しい人が多いです。



アフリカ大陸に足を踏み入れてはじめて果てなく広がる『空』に感動しました。星空は目を疑うほど美しく、何時間観ていても飽きないほどです。

これから、マラウイの生活や文化、協力隊の仕事などをほんの一面ではありますが、紹介していきたいと思います。マラウイについて質問等があれば、お待ちしております。それではTionana!(ティオナナ：チェワでまたね!の意)